# ホテル

佐原伸 (株) CSK システムズ 通信グループ VDM 担当

2006年10月5日

## 概要

参考文献 [1] 付録 E のホテル部屋の鍵掛けの例題の欠陥を修正し、日本語化し、実行可能仕様とした。

## 目次

1	問題の概要	3
1.1	Hotel	4
1.2	Hotel の回帰テストケース	8
1.3	TestDriver	13
1.4	TestLogger	15

## 1 問題の概要

ホテルの客は、チェックイン時に、フロントで、部屋の鍵となるカードを受け取る。 カードは2つの鍵を持ち、この鍵はその後変わることはない。 フロントは、これまでに発行したカードと、使用済みのカードを記録している。 客が、カードを使って部屋に入ると、前の客のカードでは部屋に入れなるなる。

客は、再度チェックインすることで、新たな鍵となるカードを受け取ることができるが、新しいカードを使 うと、古いカードでは部屋に入れなくなる。

#### 1.1 Hotel

ホテルの状態を、状態変数 Hotel で表す。

発行済の「鍵」の集合(発行済)と、どの部屋にどの鍵が使用されたかの情報(使用済)は、フロントが管理している。どの部屋にどの鍵が対応しているかは、「部屋」から「鍵」への写像(部屋の鍵)が記録している。どの客がどのカードを持っているかは、「客」から 「カード」集合への写像(客)が記録している。新しい鍵の候補は、kevs が持っている。

参考文献 [1] では、新しい鍵を割り当てるために型束縛を使っているが、仕様を実行可能とするため、本仕様では、新しい鍵は 1 から 9999 までの値を取るようにして、集合束縛により実行が可能なようにした。この値を、あまり大きくすると、仕様実行の際、初期設定で時間がかかってしまう。

もちろん、「鍵」や 「部屋」の型を nat にしているのは、実装のための指定ではない。型の詳細をまだ決めたくない場合、一般的には token 型を使うのだが、テストケースの記述が長くなるのを避けるため、便宜上、nat 型を使っているだけである。

module 『ホテル』

exports all

definitions

```
types
```

```
pes 1.0 「鍵」= \mathbb{N}; 2.0 「部屋」= \mathbb{N}; 3.0 「客」= token; 4.0 「カード」::第一:「鍵」, 1 第二:「鍵」; 5.0 「フロント」::発行済:「鍵」= set 1 使用済:「部屋」= = 0 inv f = rng f.使用済 = = f.発行済
```

#### 1.1.1 チェックイン

新しい鍵を持つ新カードを発行し、その鍵を発行済・使用済の情報に記録する。新カードの情報を、客写像に追加する。

```
6.0 state Hotel of
                                                                          フロント:「フロント」
        .1
                                                                          部屋の鍵:「部屋」\stackrel{m}{\rightarrow}「鍵」
            .2
                                                                        客:「客」\stackrel{m}{\rightarrow}「カード」set
            .3
                                                                          keys: \mathbb{N}-set
            .4
                                                                        inv h \triangle
            .5
                                                                                                         dom h.フロント.使用済 \subseteq dom h.部屋の鍵 \land
            .6
                                                                                                             \bigcup {\{c.第一, c.第二 } | c \in \bigcup rng h.客 } \subseteq h.フロント.発行済
            .7
                                                                        init h \triangleq h =
            .8
                                                                                                             mk-Hotel
            .9
            .10
                                                                                                                                                                     mk-^{\Gamma} ^{\Gamma} ^
            .11
                                                                                                                                                                     \{\mapsto\},
            .12
          .13
                                                                                                                                                                       \{\mapsto\},
                                                                                                                                                                     \{1, \dots, 9999\})
          .14
        .15 end
```

operations

```
チェックイン: 「客」×「部屋」\stackrel{o}{\rightarrow}「カード」
       チェックイン (guest, room) \triangle
   .2
         let 新鍵 \in keys be st 新鍵 \not\in フロント.発行済 in
         let 新カード = mk-「カード」(フロント.使用済 (room), 新鍵) in
   .3
              フロント.発行済:= フロント.発行済∪{新鍵};
   .4
              フロント.使用済 := フロント.使用済 † {room → 新鍵 };
   .5
              客 := if auest \in dom 客
   .6
                    then 客 † \{guest \mapsto \mathbf{8} (guest) \cup \{\mathbf{新カード}\}\}
   .7
                    else 客 igorplus \{guest \mapsto \{\mathfrak{MD} - \mathfrak{k}\}\};
   .8
              return 新カード
   .9
   .10
   .11 pre room \in dom  フロント.使用済
   .12 post \exists新鍵 \in keys .
                新鍵 ∉ フロント.発行済 ∧
   .13
                let 新カード = mk-「カード」(フロント.使用済 (room), 新鍵) in
   .14
                フロント.発行済 = フロント.発行済 ∪ {新鍵 } ∧
                フロント.使用済 = ´フロント.使用済 † {room → 新鍵 } ∧
   .16
                .17
                then \mathbf{8} = \mathbf{\overline{8}} \dagger \{guest \mapsto \mathbf{\overline{8}} (guest) \cup \{\mathbf{新カード}\}\}
   .18
                .19
1.1.2 チェックイン陰仕様
      チェックイン陰仕様:「客」×「部屋」\stackrel{o}{\rightarrow}()
       チェックイン陰仕様 (quest, room) △
   .1
         is not yet specified
   .2
       pre room ∈ dom フロント.使用済
       post∃新鍵:「鍵」·
   .4
                 新鍵 ∉ フロント.発行済 ∧
   .5
                 let 新カード = mk-「カード」(フロント.使用済 (room), 新鍵) in
   .6
                 フロント.発行済 = フロント.発行済 ∪ {新鍵 } ∧
   .7
                 フロント.使用済 = フロント.使用済 † {room → 新鍵 } ∧
   .8
                 if quest ∈ dom  \stackrel{\frown}{\mathbf{8}}
   .9
                 then \mathbf{8} = \mathbf{8} \dagger \{guest \mapsto \overline{\mathbf{8}} (guest) \cup \{\mathbf{新カード}\}\}
   .10
                 else 客 = \overline{\mathbf{a}} [\mathbb{m} { guest \mapsto \{\mathbf{新カード}\}\} ;
   .11
1.1.3 入る
  客が部屋にはいると、部屋の鍵がカードの第二の鍵になるので、前の客の鍵は使えなくなる。
       入る:「部屋」×「客」×「カード」\stackrel{o}{\rightarrow} \mathbb{B}
       入る (room, guest, c) \triangleq
   .1
              if c.第一 = 部屋の鍵 (room)
   .2
                      部屋の鍵:=部屋の鍵 \dagger \{room \mapsto c.第二 \}; 
   .3
   .4
                       return true
```

)

```
elseif c.第二 = 部屋の鍵 (room)
   .6
   .7
              then return true
   .8
              else return false
   .9
       pre \ room \in dom 部屋の鍵 \land guest \in dom 客 \land
   .10
           c \in \mathbf{8} (quest)
   .11
       post if c \in \mathbf{8} (guest) \land
   .12
              (c.第一 = 部屋の鍵 (room) \land 部屋の鍵 = 部屋の鍵 † \{room \mapsto c.第二 \} \lor
   .13
               c.第二 = 部屋の鍵 (room) \land 部屋の鍵 = 部屋の鍵)
   .14
            then RESULT = true
   .15
            else RESULT = false;
   .16
1.1.4 入る陰仕様
       入る陰仕様:「部屋」\times「客」\overset{o}{\to} \mathbb B
 10.0
       入る陰仕様 (room, guest) ≙
   .1
   .2
         is not yet specified
        pre room \in dom 部屋の鍵 \land guest \in dom 客 \land
   .3
            \exists c \in \mathbf{8} (guest) \cdot c.第一 = 部屋の鍵 (room) \lor c.第二 = 部屋の鍵 (room)
   .4
        post if \exists c \in \mathbf{8} (quest).
   .5
                   c.第一 = 部屋の鍵 (room) \land 部屋の鍵 = 部屋の鍵 \dagger \{room \mapsto c.第二 \} \lor
   .6
                    c.第二 = 部屋の鍵 (room) \land 部屋の鍵 = 部屋の鍵
   .7
             then RESULT = {\it true}
   .8
             else RESULT = false;
      ホテル状態を設定する
1.1.5
        ホテル状態を設定する:「フロント」\times「部屋」\stackrel{m}{\to}「鍵」\times「客」\stackrel{m}{\to}「カード」\operatorname{set} \stackrel{o}{\to} Hotel
 11.0
        ホテル状態を設定する(a フロント,部屋の鍵写像,客写像) △
   .1
              .2
                   部屋の鍵:=部屋の鍵写像;
   .3
                   客:=客写像
   .4
   .5
              );
               \mathsf{return}\ Hotel
   .6
          );
   .7
1.1.6 ホテル状態を得る
        ホテル状態を得る:()\stackrel{o}{\rightarrow}Hotel
 12.0
        ホテル状態を得る() △
   .1
          return Hotel
end 『ホテル』
   Test Suite:
                      vdm.tc
                       『ホテル』
   Module:
                        Name
                                                            #Calls
                                                                      Coverage
```

『ホテル』'入る

10

Name	#Calls	Coverage
『ホテル』'入る陰仕様	0	0%
『ホテル』'チェックイン	9	$\sqrt{}$
『ホテル』'ホテル状態を得る	9	$\sqrt{}$
『ホテル』'チェックイン陰仕様	0	0%
『ホテル』'ホテル状態を設定する	6	
Total Coverage		62%

## 1.2 Hotel の回帰テストケース

```
module Hotel の回帰テストケース。
 t1(), t2(), ... などの各テストケースが返す TestDriver'TestCase 型の 2 番目の引数は、true を返す式でな
ければならない。
\mathsf{module}\ HotelT
      imports
        from『ホテル』all,
13.0
 14.0
        from TestDriver all
      exports all
definitions
values
      チェックイン = 『ホテル』 'チェックイン;
 15.0
      入る = 『ホテル』 (入る;
 16.0
      ホテル状態を得る = 『ホテル』 'ホテル状態を得る;
 17.0
      ホテル状態を設定する = 『ホテル』 ・ホテル状態を設定する
 18.0
functions
```

```
run:()\to \mathbb{B}
      run\left(\right) \triangleq
.1
         let testcases = [t1(), t2(), t3(), t4(), t5(), t6()] in
.2
.3
         TestDriver'run (testcases)
```

### 1.2.1 初めてのチェックイン

operations

19.0

```
t1:() \xrightarrow{o} TestDriver`TestCase
20.0
       t1() \triangleq
  .1
         let key1 = 1,
  .2
             key2 = 2,
  .3
             key3 = 3,
  .4
             room1 = 101,
  .5
  .6
             room2 = 102,
             佐原 = mk-token ("佐原"),
  .7
             oldhotel =
  .8
                  ホテル状態を設定する
  .9
  .10
                        mk-『ホテル』 「フロント」(\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
  .11
                        \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
  .12
                        \{\mapsto\}),
  .13
            - = チェックイン (佐原, room2),
  .14
```

```
hotel = ホテル状態を得る() in
   .15
   .16
          {\sf return\ mk-} \textit{TestDriver'}. \textit{TestCase}
   .17
                      .18
                      \exists新鍵 \in oldhotel.keys \cdot
   .19
                          新鍵 ∉ oldhotel.フロント.発行済 ∧
   .20
                          let 新カード = mk-『ホテル』 「カード」 (oldhotel.フロント.使用済 (room2), 新
   .21
鍵) in
                          hotel.フロント.発行済 = oldhotel.フロント.発行済 ∪ {新鍵 } ∧
   22
                          hotel.フロント.使用済 = oldhotel.フロント.使用済 † \{room2 \mapsto 新鍵 \} \land
   .23
                          hotel.客 = oldhotel.客 oxdots {佐原 \mapsto {新カード }});
   .24
1.2.2 2回目以後のチェックイン
        t2:() \stackrel{o}{\rightarrow} TestDriver`TestCase
 21.0
        t2() \triangleq
   .1
          let key1 = 1,
   .2
   .3
             key2 = 2,
             key3 = 3,
   .4
             room1 = 101.
   .5
             room 2 = 102,
   .6
             佐原 = mk-token ("佐原"),
   .7
   .8
                  ホテル状態を設定する
   .9
   .10
                       mk-『ホテル』 「フロント」 (\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
   .11
                       \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
   .12
                       \{\mapsto\}),
   .13
             - = チェックイン (佐原, room2),
   .14
             oldhotel = ホテル状態を得る(),
   .15
             - = チェックイン (佐原, room2),
   .16
             hotel = ホテル状態を得る() in
   .17
          {\sf return\ mk-} \textit{TestDriver'} \textit{TestCase}
   .18
   .19
                      "HotelT02: \t 2 回目以後のチェックイン",
   .20
                      \exists新鍵 \in oldhotel.keys \cdot
   .21
                          新鍵 ∉ oldhotel.フロント.発行済 ∧
   .22
                          let 新カード = mk-『ホテル』 「カード」 (oldhotel.フロント.使用済 (room2),新
   .23
鍵) in
                          hotel.フロント.発行済 = oldhotel.フロント.発行済 ∪ {新鍵} ∧
   .24
                          hotel.フロント.使用済 = oldhotel.フロント.使用済 † \{room2 \mapsto 新鍵 \} \land
   .25
                          hotel.客 = oldhotel.客 † {佐原 \mapsto oldhotel.客 (佐原) \cup {新カード }});
   .26
1.2.3 入る(第一鍵に一致)
        t3:() \stackrel{o}{\rightarrow} TestDriver`TestCase
 22.0
        t3() \triangle
   .1
          let key1 = 1,
   .2
             key2 = 2,
   .3
             key3 = 3,
   .4
             room1 = 101,
   .5
```

```
room2 = 102,
   .6
   .7
             佐原 = mk-token ("佐原"),
   .8
                  ホテル状態を設定する
   .9
   .10
                        \mathsf{mk}-\mathbb{F}ホテル』 「フロント」 (\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
   .11
                        \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
   .12
   .13
                        \{\mapsto\}),
              c = チェックイン (佐原, room2),
   .14
              oldhotel = ホテル状態を得る(),
   .15
             -= 入る (room2, 佐原, c),
   .16
             hotel = ホテル状態を得る() in
   .17
          {\sf return\ mk-} \textit{TestDriver'}. \textit{TestCase}
   .18
   .19
                      .20
                      c \in hotel.客(佐原) \land
   .21
                      (c.第一 = oldhotel.部屋の鍵 (room2) \land
   .22
                       hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵 † \{room2 \mapsto c.第二 \} \lor
   .23
   .24
                       c.第二 = oldhotel.部屋の鍵 (room2) \land
                       hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵));
   .25
      入る(第二鍵に一致)
1.2.4
        t4:() \stackrel{o}{\rightarrow} TestDriver`TestCase
 23.0
        t4() \triangleq
   .1
   .2
          let key1 = 1,
             key2 = 2,
   .3
             key3 = 3,
   .4
             room1 = 101,
   .5
   .6
             room2 = 102,
             佐原 = mk-token ("佐原"),
   .7
   .8
                  ホテル状態を設定する
   .9
   .10
                        mk-『ホテル』 「フロント」(\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
   .11
                        \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
   .12
   .13
                        \{\mapsto\}),
   .14
             c = チェックイン (佐原, room2),
   .15
             -= 入る (room2, 佐原,c),
             oldhotel = ホテル状態を得る(),
   .16
   .17
             -= 入る (room2, 佐原, c),
             hotel = ホテル状態を得る() in
   .18
          {\sf return\ mk-} \textit{TestDriver'}. \textit{TestCase}
   .19
   .20
                      .21
                      c \in hotel.客(佐原) \land
   .22
                      (c.第一 = oldhotel.部屋の鍵 (room2) \land
   .23
```

hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵 †  $\{room2 \mapsto c$ .第二  $\}$   $\lor$ 

c.第二 = oldhotel.部屋の鍵  $(room2) \land$ 

hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵));

.24 .25

.26

#### 1.2.5 前の客のカードでは入れない。

```
t5:() \stackrel{o}{\rightarrow} TestDriver`TestCase
24.0
       t5() \triangle
  .1
         let key1 = 1,
  .2
  .3
             key2 = 2,
             key3 = 3,
  .4
             room1 = 101,
  .5
             room 2 = 102,
  .6
             佐原 = mk-token ("佐原"),
  .7
             酒匂 = mk-token ("酒匂"),
  .8
  .9
                  ホテル状態を設定する
  .10
  .11
                        mk-『ホテル』 「フロント」(\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
  .12
                        \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
  .13
  .14
                        \{\mapsto\}),
             c = チェックイン (佐原, room2),
  .15
            -= 入る (room2, 佐原, c),
  .16
             c1 = チェックイン (酒匂, room2),
  .17
             -= 入る (room 2, 酒匂, c1),
  .18
  .19
             - = ホテル状態を得る(),
             err = \lambda \delta (room2, 佐原, c) in
  20
          {\tt return\ mk-} \textit{TestDriver'} \textit{TestCase}
  .21
  .22
                      "HotelT05: \t 前の客のカードでは入れない。",
  .23
                      \neg err);
  .24
```

### 1.2.6 自分自身でも、前のカードでは入れないが、新しいカードでは入れる。

```
t6:() \stackrel{o}{\rightarrow} TestDriver`TestCase
25.0
       t6() \triangle
  .1
         let key1 = 1,
  .2
            key2 = 2,
  .3
            key3 = 3,
  .4
            room1 = 101,
  .5
  .6
            room2 = 102,
            佐原 = mk-token ("佐原"),
  .7
  .8
                 ホテル状態を設定する
  .9
  .10
                       mk-『ホテル』 「フロント」(\{key1, key2, key3\}, \{room2 \mapsto key2\}),
  .11
  .12
                       \{room1 \mapsto key1, room2 \mapsto key2\},\
                       \{\mapsto\}),
  .13
            c = チェックイン (佐原, room2),
  .14
            -= 入る (room2, 佐原, c),
  .15
            c1 = チェックイン (佐原, room2),
  .16
            -= 入る (room2, 佐原,c1),
  .17
            - = ホテル状態を得る(),
  .18
            oldcard = 入る (room2, 佐原, c),
  .19
```

```
newcard =  入る (room2, 佐原, c1) in .21 return mk-TestDriver `TestCase .22 (.23 "HotelT05:\t 自分自身でも、前のカードでは入れないが、新しいカードでは入れる。", .24 \neg oldcard \wedge newcard) end HotelT Test Suite: vdm tc
```

 $\begin{array}{ll} \textbf{Test Suite:} & \text{vdm.tc} \\ \textbf{Module:} & \text{HotelT} \end{array}$ 

Name	#Calls	Coverage
HotelT't1	1	√
HotelT't2	1	√
HotelT't3	1	83%
HotelT't4	1	88%
HotelT't5	1	_
HotelT't6	1	<b>✓</b>
HotelT'run	1	√
Total Coverage		95%

### 1.3 TestDriver

回帰テストを実行するモジュール。

TestCase 型は、テストケース 1 件を表す。

 $module \ TestDriver$ 

imports

26.0 from TestLogger all

exports all

definitions

types

 $27.0 \quad TestCase :: testCaseName : {\sf char}^*$ 

.1  $testResult : \mathbb{B}$ 

run は、与えられたテストケース列から結果列を得る。結果がすべて true ならば全体成功メッセージを表示し、1つでも失敗があれば全体失敗メッセージを表示する。

functions

- 28.0  $run: TestCase^* \to \mathbb{B}$ 
  - .1  $run(t) \triangleq$
  - .2 let m = "Result-of-test cases.",
  - .3  $r = [isOK(t(i)) \mid i \in inds t]$  in
  - .4 if  $\forall i \in \text{inds } r \cdot r(i)$
  - .5 then TestLogger`SuccessAll(m)
  - .6 else TestLogger'FailureAll(m);

isOK は、与えられたテストケースのテスト結果を確認し、true ならば成功メッセージを表示し、false ならば失敗メッセージを表示する。

- 29.0  $isOK: TestCase \rightarrow \mathbb{B}$ 
  - .1  $isOK(t) \triangleq$
  - .2 if GetTestResult(t)
  - .3 then TestLogger`Success(t)
  - .4 else TestLogger'Failure(t);

GetTestResult は、テスト結果を得る。

- $30.0 \quad GetTestResult : TestCase \rightarrow \mathbb{B}$ 
  - .1  $GetTestResult(t) \triangle$
  - .2 t.testResult;

GetTestName は、テスト名を得る。

- $31.0 \quad GetTestName : TestCase \rightarrow \mathsf{char}^*$ 
  - .1  $GetTestName(t) \triangleq$
  - .2 t.testCaseName

 ${\tt end} \ \mathit{TestDriver}$ 

Test Suite: vdm.tc

Module: TestDriver

Name	#Calls	Coverage
TestDriver'run	1	86%
TestDriver'isOK	6	70%

Name	#Calls	Coverage
TestDriver'GetTestName	6	√
TestDriver'GetTestResult	6	$\sqrt{}$
Total Coverage		83%

### 1.4 TestLogger

テストのログを管理する関数を提供する。

```
\mathsf{module}\ \mathit{TestLogger}
         imports
            from IO all ,
 32.0
           {\sf from}\ \textit{TestDriver}
 33.0
              types TestCase
 34.0
 35.0
              functions GetTestName
         exports all
definitions
values
         historyFileName = "VDMTESTLOG.TXT"
 36.0
  Success は、成功メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、true を返す。
operations
         Success: TestDriver`TestCase \xrightarrow{o} \mathbb{B}
 37.0
         Success(t) \triangleq
   .1
           let message = TestDriver'GetTestName\left(t\right) ^ " \setminus tOK. \setminus n" in
   .2
    .3
                Fprint(message);
                Print(message);
    .4
                return true
    .5
    .6
  Failure は、失敗メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、false を返す。
         Failure: TestDriver`TestCase \xrightarrow{o} \mathbb{B}
 38.0
         Failure(t) \triangleq
   .1
           let message = TestDriver'GetTestName(t) \curvearrowright " \setminus tNG. \setminus n" in
    .2
                Fprint(message);
    .3
                Print(message);
    .4
                return false
    .5
  SuccessAll は、全体成功メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、true を返す。
         SuccessAll: {\sf char}^* \stackrel{o}{\to} \mathbb{B}
 39.0
         SuccessAll(m) \triangleq
   .1
           \text{let } \overrightarrow{message} = \overrightarrow{m} \curvearrowright " \backslash tOK!! \backslash n" \text{ in }
    .2
            (Fprint(message);
    .3
                Print(message);
    .4
                return true
    .5
    .6
  Failure All は、全体失敗メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、false を返す。
```

```
FailureAll: \mathsf{char}^* \overset{o}{	o} \mathbb{B}
  40.0
           \begin{array}{c} Failure All \ (m) \ \triangle \\ \text{let} \ message = m \ ^{\sim} \ ^{\shortparallel} \backslash tNG!! \backslash n" \ \text{in} \end{array}
    .1
     .2
     .3
               (Fprint(message);
                    Print(message);
     .4
                    return false
     .5
     .6
  Print は、標準出力に文字列を表示する。
           Print : \mathsf{char}^* \xrightarrow{o} ()
  41.0
           Print(s) \triangleq
    .1
               def - = IO'echo(s) in
    .2
    .3
  Fprint は、現在ディレクトリの historyFileName で示されるファイルに文字列を表示する。
          Fprint : \mathsf{char}^* \stackrel{o}{\rightarrow} ()
  42.0
           Fprint(s) \triangleq
     .1
              def - IO fecho (historyFileName, s, APPEND) in
     .2
     .3
              skip
{\tt end} \ \mathit{TestLogger}
    Test Suite:
                               vdm.tc
    Module:
```

TestLogger

Name	#Calls	Coverage
TestLogger'Print	7	√
TestLogger'Fprint	7	
TestLogger'Failure	0	0%
TestLogger'Success	6	√
TestLogger'FailureAll	0	0%
TestLogger'SuccessAll	1	√
Total Coverage		60%

## 参考文献

## 参考文献

[1] Daniel Jackson.  $Software\ Abstraction: Logic,\ Language,\ Analysis.$  The MIT Press, Cambridge, Massachusetts, London, 2006.